



～地域につなげる、地域とつながる、企業のチカラ～

企業の社会貢献活動事例集



発行・編集 社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター
〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ2階

T E L 092-713-0777

F A X 092-713-0778

開 所 時 間 9:00～21:00

休 み 日・月曜(祝日の場合翌日)、祝日、年末年始、第3火曜

ホームページ <http://www.fukuoka-shakyo.or.jp>

平成29年3月発行

表紙イラスト／太田宏介(工房まる)

CONTENTS

はじめに	2
見守り	
つながりマップ（東区・城浜校区）	3-4
居場所	
ふら〜っとカフェ壱岐南（西区・高齢者入居施設、壱岐・野方商店連合会）	5-6
いじりカフェ（南区・井尻商店街振興組合）	7
弥永校区 ほほえみカフェ（南区・ダイキョープラザ）	8
買い物支援	
買い物支援ガイドブック（市内全域）	9-10
買い物支援バス（南区・株式会社飛鳥、早良区・株式会社やまお、早良区・株式会社ベルコ）	
障がい者交流	
特別支援学校でのバス乗車体験教室（南区・西日本鉄道株式会社）	11
技術提供	
家具の取り付け・修繕（南区・福岡県建設労働組合福岡東支部）	12
人材提供	
勤マルの日（市内全域）	13
講座	
子ども・親子向け防災講座（市内全域・柏葉食健株式会社）	14
お金の教室（市内全域・SMBCコンシューマーファイナンス株式会社）	
講座	
出前講座	15-16
●株式会社九州第一興商	
●株式会社 明治 西日本支社	
●大塚製薬株式会社 福岡支店	
●株式会社ココカラファイン	
●株式会社タカラ薬局	
●株式会社トーニン	
●中央福岡ヤクルト販売株式会社	
●株式会社介福本舗	
●株式会社あおやぎ	
●株式会社彩苑	
寄付	
寄付つき商品	17
取材を終えて	18-20
社会貢献活動メニューと活動までの流れ	21
相談受付機関	22

はじめに

阪神淡路大震災をきっかけにボランティアへの意識が高まり、市民に加え、社会貢献活動を行う企業も増えています。

企業の社会貢献活動は、CSR（Corporate Social Responsibility コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ）の一つとされます。CSRは一般的に「企業の社会的責任」と訳され、法令遵守や利益貢献、情報開示、地域への社会貢献、環境への取り組みなど、倫理的な観点から企業が社会に果たすべき責任を意味します。企業のCSRへの取り組みは2003年から本格化したといわれ、その背景には、食品の産地偽装や異物混入といった企業の不祥事が多発し、消費者の企業不信の高まりがあったからでした。これまでも「メセナ」のように企業が文化・芸術活動を支援するものはありましたが、それとは異なる社会的責任が問われるようになったのです。企業に対する世間の目が厳しくなったため、企業は企業の存続を守り、企業価値を高め発展していくための経営戦略としてCSRに取り組み始めました。

CSRの具体的な取り組みの一つとして、「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」という「地域への貢献活動」があります。企業にとってこれは直接利益に結び付くわけではありませんが、社会的な信頼を得ると同時に従業員の働き甲斐が高まり、その結果、企業が長く存続していくことが期待できます。

福岡市でも多くの企業が福岡市区社会福祉協議会や自治会、市民ボランティアなど地域社会を構成する人々と協力し、地域貢献活動を行っています。スーパーなどが高齢者を見守って孤立死を防ぐ「見守り活動」、高齢者の交流を支援する「カフェ」、買い物困難者をサポートする「買い物支援バス」、従業員が専門技術や知識を住民に提供する「技術提供」「出前講座」など、活動内容は多岐に渡り、そのスタイルはさまざまです。企業のイメージアップ、広報活動、従業員のモチベーションアップなど、活動を始めた理由やきっかけもまたさまざまですが、継続することによって企業や地域に思わぬ効果をもたらしています。

ここでは、そのような社会貢献活動をする企業とその活動内容、活動がもたらすものを紹介します。地域社会は企業のチカラを必要としています。この冊子が企業の社会貢献、地域貢献活動のきっかけとなれば幸いです。



スーパー、新聞販売店、医院、自治会等が協力して孤立死を防ぐ

つながりマップ

東区

福岡市東区城浜校区は、そのほとんどが市営、県営の集合住宅である城浜団地（76棟）で形成された地域です。人口は約3,400人。99%が城浜団地に住み、世帯平均人員は1.56人、高齢化率は48.7%に上ります。天神からバスで20分ほどの距離にあり、近くにスーパーや医療機関が多いという立地、公営団地であるという住宅条件から高齢になって同校区に移り住む住民も少なくありません。そんな校区では「高齢者の孤立死をいかに防ぐか」が大きな課題となっています。

高齢になって移り住んだ人は、人づきあいの難しさも手伝って地域との交流が少なくなりがち。それが孤立死につながっていきます。団地で倒れて発見されても、本人の氏名や年齢、親族の連絡先がわから

なければ、町内会長や民生委員は対応に困ります。そこで城浜校区では、2011年、見守りの仕組みづくりに取り組み、「つながりマップ」づくりを行いました。

まず、町内会長（15町）、民生委員（12人）、校区社協、老人クラブ、自治協役員、公民館などで「つながりマップ実行委員会」を設立しました。見守りを希望する住民には「見守りカルテ」に緊急連絡先などを書いてもらい、その提出の有無を住民地図のような「つながりマップ」に記入しました。「つながりマップ」を見れば、委員たちがどの人をどのように見守ればいいのか、わかる仕組みです。町内清掃時に町内役員が見守り対象者をはじめ高齢者に声をかけたり、町内の定例会時に情報交換を行ったりしています。

その後、企業に声をかけて年に1回「つながりマップ拡大会議」を実施。スーパー、新聞販売店、乳製品宅配店、薬局、医院など、さまざまな業種の人々が参加し、買い物に来た高齢者の様子や新聞配達の際に気づいたことなどを報告しています。会議を通じて皆が顔なじみとなっているため、高齢者の異変を感じた際、自治会への連絡もスムーズ。連携が取りやすいという利点も生まれています。個人情報保護法により住民の安全を守るための情報開示が進まないという課題は残るものの、地域と企業が一体となって住民を見守る城浜校区の活動は他の校区からも注目されています。



■つながりマップ定例会DATA

開 始：2011年
開 催：原則、偶数月の第1水曜19:30～
（拡大会議12月第1水曜）
場 所：城浜公民館
参 加 者 数：町内会長、民生委員、校区社協、
老人クラブ、自治協役員、公民館
など約40名（拡大会議は約80名）

■拡大会議参加企業DATA

参 加 企 業：医院、診療所、整骨院、鍼灸院、薬
局、スーパー、コンビニ、新聞販
売店、乳製品宅配、葬祭業者、福
祉施設など22企業・店舗
公 的 機 関：郵便局、交番、消防分団、小学校、
福岡市・福岡県住宅供給公社、福
岡市地域包括支援センター、東区
精神障がい者・知的障がい者相
談支援センター、東区地域保健福
祉課、福岡市区社協など10社
参 加 人 数：35～36名



■参加企業の声

フレンドショップ城浜

買い物の様子に異変を感じたら自治会に連絡

私は校区内でスーパーの店長をしており、高齢者の買い物の様子を見ていて異変を感じることがあります。ある女性は1本500～800円の殺虫剤を2～3本求め、その数日後に同じ殺虫剤をまた3～4本購入されました。住まいとお姉さんを知っていたので連絡したところ、そのような買い物はなくなりました。肉を手に取り、鮮魚コーナーに行ったらそれを置いて、別の惣菜をまた手に取る。その行動を毎日繰り返す人もいます。その方の住まいは知らないため、町内会長さんに行動を伝えました。

様子がおかしいと感じた時、私は町内会長さんなどにすぐ報告しています。「買い物は楽しい」と言ってくださる高齢者もいるので、私は見守りを続けながら皆さんに来ていただける店にしていきたいと思っています。

店長 立花 伸一



■自治協議会の声

城浜校区自治協議会

企業からの地域情報があったい

校区の活動は当初、福祉相談会開催から始まり、その後、「見守りカルテ」、不在時を知らせる「不在にしますカード」、町内会長や民生委員の連絡先を記した「見守りカード」などの作成へと発展しました。交流の場となる「ふれあいサロン」も実施しています。しかし、住民の力だけでは限界があり、地域の医療機関や店舗、福祉・介護事業所に協力を呼びかけ、参加してもらっています。新聞販売店さんからの連絡を受けて住民を訪ねたら旅行中だっただけで、懸念が空振りに終わることもあります。このような空振りは大歓迎です。企業の皆さんから地域の情報をいただくだけで十分ありがたいと思っています。

会長 藤村 和徳
（平成28年12月当時）



■拡大会議参加企業の声

◎ポストに新聞がたまっていたり、集金に何度行っても留守だったりすると、町内会長さんに連絡しています。個人情報の問題もあるので出過ぎたことをしてはいけないと思いつつ、「ひょっとしたら」という場合もあるため、配達員には新聞がたまっていたら報告するように指示しています（新聞販売店）。
◎高齢者の在宅生活を支えることも医療機関の役割です。事例を通して、私たち地域密着型の医療機関ができることは何か、考えさせられました（医院）。
◎さまざまな業種のつながり、住民のつながりがすごいと感じました（鍼灸院）。

◎個人情報保護の壁が「つながりマップ」の活動を阻害しているように感じ、最悪のケースを招くのではないかと心配します（新聞販売店）。
◎個人情報の取り扱いの難しさ、緊急連絡先の大切さ、個人情報を悪用されないための工夫、ご近所の様子を気にかける大切さ、異変に気づく大切さを知りました（消防団）。
◎会議に参加しているメンバーの顔ぶれに驚きました。地域住民+行政+医療・介護が連携し、安心して暮らせるまちづくりをしていくことが大切だと思います（訪問看護ステーション）。



高齢者入居施設、商店連合会、住民らが連携してカフェを開催

ふら〜っとカフェ
壱岐南
西区

2017年某日、特別養護老人ホーム「マナハウス」で「ふら〜っとカフェ壱岐南」が開催されました。この日は2周年記念日ということもあり、来場者は約200名、そのうちボランティアは約90名。子どもから高齢者まで揃い、冷たい雨が降る中、会場は熱気にあふれていました。

「ふら〜っとカフェ壱岐南」が始まったのは2年前。壱岐南校区の高齢化率は34%と他地域に比べて高く、高齢者の孤立や孤独死を心配する声が上がりました。そこで住宅から地域の高齢者入居施設に声をかけたところ、お互いを知りたい、知識を得たいという双方の思いが一致し、2014年8月に有志で「地域ケア連絡会」を設立。課題を共有し解決策を話し合ううち、毎月

1回、地域住民や高齢者の絆を深める場として「ふら〜っとカフェ壱岐南」を開くことになりました。高齢者入居施設が交代で会場を提供し、送迎を担当。約10社から年間1万円の広告費を募ってお茶やお菓子を用意し、全戸(4,000戸)配布のチラシを作り広報して施設入居者や地域の高齢者を招き入れています。

会場では壱岐・野方商店連合会の加盟店や企業、自治協議会の関係者、福祉作業所などが野菜や果物、花、小物などをお値打ち価格で販売。踊りや歌も披露され、会場はまるでお祭りのように賑やかです。運営はすべて地域住民によるボランティアで行われ、役割分担はせず、受付や司会、コーヒーを淹れるマスターなどそれぞれ

が自分の得意分野を生かして参加しています。それは企業も同じ。人手や知識、技術、場所を提供して地域住民の交流に役買っています。「皆が勝手に集まって好きにやっている」というゆるりとした絆を受け、2015年2月のスタート以来、毎月平均150名の来場者(50〜80名はボランティア)が参加するカフェに育っています。



■カフェDATA

開 始：2015年2月
開 催：毎月第1日曜10:00〜15:00
場 所：高齢者入居施設
来 場 者 数：100〜150名
ボランティア数：50〜80名(来場者数に含む)

■参加企業の声

株式会社タカラ薬局

おくすり相談や 骨密度計測を実施

校区内の薬剤師と一緒に参加し、飲み残し等による残薬や市販の薬を持参いただき、効能別、服用方法別にまとめてお返しする「おくすり整理」や、お薬についての疑問等をアドバイスする「おくすり相談」、骨密度測定などを行っています。異業種の方々と知り合い、また多様な考えに触れ、仕事では得られないものも多いです。運営スタッフの一人という気持ちで参加することで派生する地域住民との密な交流は、地域ボランティアの醍醐味です。



住 所：福岡市博多区博多駅前3-25-21
博多駅前ビジネスセンター3F
T E L：092-436-2900
事業内容：薬局経営
創 業：1980年
従業員数：330名

株式会社あおやぎ 西会館

季節の生花を 安価で提供

ここで私たちができることを考え、協力できることが生花の販売でした。「花を買う」ことが高齢者の来場のきっかけになればいいと考えています。「あおやぎの生花は長持ちする」と言って毎月買ってくださいの方もおられます。来場者やボランティアの方々との交流は得ることも多く、他業種の方々とも情報交換ができ、自分自身にも良い影響をいただいています。



住 所：福岡市西区石丸2-11-42
T E L：092-885-1311
創 業：1976年
事業内容：葬祭業
従業員数：50名

壱岐・野方商店連合会

野菜・果物、 手づくりハム等を販売

手づくりウインナー・ソーセージ店と果物店の2店舗が毎回参加し、たこ焼き店など参加者は少しずつ増えています。店の主人が参加できない時はボランティアさんが代わりに販売してくれるので助かります。このカフェは普段接しない客層に接し、店とお客様とが知り合う良いチャンスになります。同会はお祭りなどで移動販売する店も多く、フットワークの軽さが特徴。参加店をもっと増やし、地域の方々と長く共存していきたいと思っています。



創 立：2006年
加 盟 店：72店
会 長：溝口 隆夫
連 絡 先：溝口酒店 TEL092-811-7766

■会場や送迎を担当する高齢者入居施設の声

特別養護老人ホーム マナハウス

地域と一緒に課題解決に取り組むことができており、一体感が生まれてきました。地域住民に施設内に足を踏み入れてもらうことで、介護が必要になったときには気軽に相談できる「顔の見える関係」が築かれ始めています。



住 所：福岡市西区戸切3-20-8
T E L：092-811-5528
創 業：2004年
従業員数：55名

サービス付き高齢者向け住宅 かりん

当施設のコンセプトは「高齢者の方々が世代を超え地域の人々や子どもたちと共に、最期まで誇らしく安心して暮らしていける」です。カフェに参加して地域の方々との交流も深まり、施設も成長させていただいています。



住 所：福岡市西区戸切2-13-27
T E L：092-811-3111
創 業：2013年
従業員数：23名

社会福祉法人 博仁会 リハモール福岡

“地域で何か役に立ちたい”との思いで参加し2年ほど経ちます。当初は介護施設を初めて訪れる方もおられましたが、回数を重ねることで顔なじみの関係になり、カフェ以外の日でも相談にみえる方がいらっしゃいます。



住 所：福岡市西区野方7-780-1
T E L：092-812-3811
創 業：2004年
従業員数：97名

サンライズ壱岐 居宅介護支援事業所・デイケア

地域のことを知りたい、地域の人に自分たちを知ってもらいたいと思い、参加しました。地域の皆さんの思いを尊重し、活動に協力するという姿勢を大切にしています。皆さんと顔の見える関係ができ、仕事もスムーズに進みます。



住 所：福岡市西区野方1-16-26
T E L：092-812-5088
創 業：1977年
従業員数：100名

商店街の空き店舗を 住民の触れ合いの場に活用

西鉄井尻駅は西鉄福岡(天神)駅から普通電車で約15分。その便利な立地から駅周辺にはマンションが次々と建ち、30～40代の若い世帯が増えています。一方、井尻駅から歩いて2～3分の場所にある井尻商店街は各地の商店街と同様、シャッターを閉めた店が増え、活気不足が店主たちの悩みのタネでした。

転居してきた若い世代のまちや地域住民を知るきっかけづくりができないか。商店街の空き店舗を有効活用し、活気を取り戻せないか。この二つの思いを結び付けて生まれたのが「いじりカフェ」です。駅周辺の住民が住む高木校区は、住民の交流の場となる公民館が遠いため、空き店舗を活用することにしたのです。

井尻商店街振興組合や商店街に店を構えるNPO法人で「いじりカフェ実行委員会」を作り、振興組合が光熱費を負担して毎月1回、カフェを開催しています。茶を販売する店主が「お茶の淹れ方教室」を開いたり、福岡女学院大学落語研究会が落語を披露したり。各地の商店街でおなじみの「まちゼミ」とミニイベントを合わせたようなスタイルで、来場者には幼児を連れた若い世代の姿が多く見られます。

福祉に詳しい人々がボランティアとして参加することもあります。カフェの世話役を務め、脳トレおもちゃを扱う「おもちゃ屋パレット」代表・井上慎吾さんは、彼らとの交流を通して「これまで知らなかった市の育児や福祉サービスを知ることができた」

と嬉しそう。カフェは、住民はもちろん、店を離れられない店主たちにとっても知識、情報、人の交流の場になっています。委員会メンバーは「今後、楽器を置いて高校生ら若者の集う場所にもしたい」と話し、店主や住民、来場者らとのコラボによって何が生まれるのか、楽しみでもあります。



■カフェDATA	
開 始	2016年10月
開 催	毎月第1週・曜日不定・13:30～15:30 (2017年4月より第2土曜に変更)
場 所	井尻商店街フリースペース ポポタン1階
来 場 者 数	10～20名

■企業DATA	
井尻商店街振興組合	
設 立	1948年
加 盟 店	43店
理 事 長	武本春一
連 絡 先	武本製茶園 TEL092-581-0984

いじりカフェ
南区

スーパーの店頭を 地域の交流の場として開放

福岡市南区の南東部に位置する弥永校区は、1966年～1970年度に建設された市営弥永団地(5階建て47棟)を抱えた住宅地です。校区の人口は6,300人を超えているものの減少傾向にあり、2014年には高齢化率が南区で最も高くなりました(校区32%、南区21.4%)。そこで校区社会福祉協議会は福祉施設職員の協力を得て校区内で「ほほえみカフェ」を開いています。

スーパー、ダイキョープラザ弥永店は、弥永校区の台所。1970年の創業以来、スーパーとしての役割にとどまらず、校区のお祭りに協賛したり、交流の場となるようなイベントを実施したりして地域活動を積極的に行ってきました。2015年からは「ほほえみカフェ」の会場の一つとして店

頭を住民に開放しています。

同店でのカフェは、毎月第1金曜の10時から13時まで。従業員も業務の合間に店頭で顔を寄せ、参加者と言葉を交わします。来場者は3時間で約120名。普段、地域行事に出て来なくても、ここには顔を出すという男性もいるそうです。

また、店頭の「お祭り広場」ではフリーマーケットや福祉用具販売店、リフォーム業者、携帯電話販売店らによる相談会、足ツボマッサージなどが行われることもあります。

現在、小売業界は競争が激しく、多くの店は従業員数を減らして省力化、効率化を図っています。しかし、同社はそれとは真逆の行動。地域との結び付きを大事にし、住民との触れ合いに時間を割いていま

す。長年働く従業員は創業者の「仕事をするな、お客様と話をしろ」という言葉が深く心に刻まれていると言います。「損得でなく善悪で判断する」が同社の基本方針だとか。行動に迷ったら、善の行動を取るように教育されており、それが従業員の行動につながっていると言います。カフェへの協力も業務や営業活動として行っている素振りは感じられず、率先して行っています。40年に渡る地域住民との触れ合いにより同社に対する住民の信頼度は高く、カフェ開催時以外も店は盛況。「この厳しい時代にありがたい」と従業員は話し、「地域住民のライフラインとして、地域のために今後も活動を続けたい」と笑顔を見せました。

弥永校区
ほほえみカフェ
南区



■カフェDATA	
開 始	2015年
開 催	3月～11月の第1金曜 10:00～13:00
場 所	ダイキョープラザ弥永店
来 場 者 数	120～130名

■企業DATA	
株式会社ダイキョープラザ	
住 所	福岡市南区柳瀬1-33-10
T E L	092-571-0886
創 業	1978年
事 業 内 容	スーパー
従 業 員 数	社員83名・パートナー230名

お買い上げ商品を宅配する 店舗の情報を冊子にして配布

「近くにスーパーがなく、車もないし、バス停までも遠い」「丘陵地に住んでいるので買い物が不便」。高齢社会となった今、外出や買い物に課題を抱える人々の声が増えています。そこで丘陵地や団地の多い南区の社会福祉協議会(社協)は、校区社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会の協力を得て、店頭で購入した商品を自宅へ配達する店舗をまとめた「買い物支援ガイドブック」を作成しました。

掲載店舗は、スーパーから野菜・果物、鮮魚・精肉、米・味噌・醤油の販売、宅配弁当、酒・飲料、花、茶・コーヒー、日用品、仏



具まで、実にさまざま。個人商店・地元のスーパー50店舗、大手スーパーやコンビニエンスストア、チェーン店29店舗と、店の規模に関係なく協力店はすべてリストアップされ、住所や電話番号、主な取扱商品、配達エリア、配達料金などが細かく記されています(音訳版もあります)。

あるスーパーの店主が高齢者宅へ米を届けると、受け取った高齢者は安堵して言いました。「ああ、これで生き延びられる」。それを聞き、店主は「自分たちはこの人たちのライフラインなのだ」という思いを強くしたと言います。またある弁当宅配店



買い物支援ガイドブック 市内全域

は、宅配先に弁当がそのまま残っているのを見て民生委員に連絡。その後、宅配先の住人が倒れているのがわかりました。

このガイドブックは買い物支援だけでなく、高齢者の見守りとしても機能しています。しかし現在、生協のように宅配をセールスポイントとする店が増え、また一方では「実際に見て買いたい」という声もあり、ガイドブックだけではすべての課題を解決できるわけではありません。市・区社協では今後もより充実した買い物支援策を検討していくようにしています。

■DATA	
買い物支援ガイドブック	
内 容	店頭で購入した商品を有料・無料で配達する店舗等を冊子にまとめ、必要な人に無料配布(各区に約1,000部)。
活 動 開 始	2012年より毎年改訂

買い物に困る高齢者を 自社バスでスーパーへ送迎

南区の鶴田、柏原校区は筑紫郡那珂川町に隣接する閑静な住宅地。丘陵地にあり、一戸建てや持ち家の割合の高い地域です。住民にとって一番の悩みは、坂道が多く、買い物が不便であること。洋服や寝具、園芸用品など「買い物支援ガイドブック」に掲載されていない商品もあり、「自分の目で確かめて買いたい」という要望が増えるようになりました。

そこで「地域の力になりたい」と考えていた葬祭業の株式会社飛鳥が葬儀のない友引の日にマイクロバスを「買い物支援バ



ス」として運行することに。当初、葬祭場のバスの利用に難色を示す住民がいたものの、同社は車体に社名を表記しないよう工夫し、運転手の気さくさも手伝って住民に親しまれるようになりました。

ボランティアが事前に年間の買い物日を住民に知らせ、当日、利用者と商品の持ち運びを手伝うボランティアとが一緒に乗車。片道約30分の大型スーパーへ向かいます。車内はおしゃべりに花が咲き、まるで遠足ようです。バスは乗客を降ろしてすぐ引き返し、別の校区住民を乗せて再び

■企業DATA	
株式会社飛鳥	
住 所	福岡市南区野間1-27-5
T E L	092-553-6000
創 業	1980年
事 業 内 容	葬祭業
従 業 員 数	30名

株式会社飛鳥 南区

スーパーへ。帰りには買い物を終えた住民を乗せて帰るというように、バスは2往復しています。

「買い物は生活にハリが出るし、こうして皆とおしゃべりするのが楽しいんですよ」と90代の女性が話せば、その横から「私たちも先輩の生き方を学べます」と60代女性。バスを待つ間、コーヒーを飲みながら地域の課題について話し合う男性たちもいます。この活動が好評を博し、現在、同社は4校区で買い物支援を行っています。

■活動DATA	
活 動 開 始	2014年
活 動 回 数	月1回
活 動 場 所	鶴田、柏原、長丘、西高宮の4校区
活動従業員数	1名
利 用 者 数	10～20名

高齢者の買い物や行事をサポート

株式会社やまお 早良区

株式会社やまおは、早良区を拠点とする葬祭業者です。同社は「地元密着」をモットーとしており、地元住民に愛される活動を続けています。その一つが本社近くの重留3丁目自治会での「買い物支援バス」です。重留3丁目自治会は背後に油山を抱えた丘陵地にあり、高齢者が路線バスの走る道路まで歩くのは困難です。そこで同社は月に1回、自社バスを「買い物支援バス」として運行しています。

バスは自治会の希望日に合わせて運行し、自治会はそれを町内回覧で住民に広



報します。停留所は3カ所。買い物に行きたい人は当日、停留所に集合。付き添いの住民ボランティアらと一緒に乗車し、近くのスーパーへ。買い物した後、バスに乗って停留所へ戻ります。道中は和気あいあいとした雰囲気、運転手も「ボランティアで参加する」と言うほど、住民との交流の輪が広がっています。

同社は運動会や老人会の忘・新年会、公園掃除などの地域行事にも参加。毎年春には本社で「地域感謝祭」を開催し、住民のサークル活動の発表の場になっていま

■企業DATA	
株式会社やまお	
住 所	福岡市早良区野芥3-4-2
T E L	092-866-0983
創 業	1989年
事 業 内 容	葬祭業
従 業 員 数	13名

す。たこ焼やうどんなどの出店や福祉作業所の小物販売コーナー、住民たちが踊りや歌を披露するステージがあり、400～500人の人出で賑わいます。「このような活動ができるのも自治会長さんやボランティアさんの協力があってこそ」と社員は感謝し、「地域との人的交流が社員と地域のひととの交流を深め、温かみのある仕事を作り出している」と言います。これらの活動は、亡くなった人に思いを馳せる温かみのある人材の育成にもつながっています。

■活動DATA	
活 動 開 始	2014年
活 動 回 数	月1回(第3金曜)
活 動 場 所	早良区重留3丁目自治会
活動従業員数	1名
利 用 者 数	約10名

高齢者のレクリエーションを 支援する

株式会社ベルコ福岡支社 早良区

株式会社ベルコは、ベルクラシック福岡大濠やシティホールなどの会場を抱え、結婚式とお葬式という人生の二大セレモニーを担う会社です。同福岡支社は「地域にしっかり根付いた、公共性の高い企業としての活動を充実していきたい」と地域貢献を希望し、早良区社協に相談。区内で実施している「ふれあいサロン」の支援企業を探していた区社協にとっては願ったり叶ったりで、早々に同社の支援がスタートしました。

飯倉中央校区にはふれあいサロン「た



んぽぽ」があるのですが、交流会場に最適な公民館は坂の上にあり、高齢者には不便。他に場所がなく困っていたため、同社が冠婚葬祭場を会場として提供し、またその場所への送迎も同社バスで行うようにしました。

サロンは月に1回開催されます。バスは3カ所の停留所を回って会のメンバーを乗せ、会場へ。皆は会場でカラオケやぬり絵などその日のメニューを楽しみ、存分におしゃべりし、会で持参したお弁当を食べ、バスで帰ります。時には柿狩りなどに出

■企業DATA	
株式会社ベルコ福岡支社 早良支部代理店	
住 所	福岡市早良区飯倉2-1-4
T E L	092-833-6305
創 業	1969年
事 業 内 容	冠婚葬祭互助会
従 業 員 数	福岡支社300名

かけることもあります。特別な料理も派手な催しもなく、日常の延長ではありますが、「皆と会って出かけるのが楽しみ」と参加者が話すように、一人暮らしや外出機会の減った高齢者にとっては数少ない楽しみの一つと言えます。同社の担当者は「その場限りにせず、継続することが大事」と言い、これからも「高齢者の楽しみ」を支援していくようにしています。

■活動DATA	
活 動 開 始	2013年
活 動 回 数	月1回(第2木曜)
活 動 場 所	早良区・シティホール飯倉又はベルクラシック福岡大濠
活動従業員数	1～2名
利 用 者 数	20～25名

特別支援学校の児童対象に バス乗車体験教室を開く

西日本鉄道
株式会社
南区

西鉄バスは屋形原特別支援学校の通学バスとしての役割を担い、通学する子どもたちにとってなじみのあるもの。運転手とは顔なじみで、皆、楽しく通学しています。しかし、通学時は支障がなくても、路線バスのように見ず知らずの人々との乗合バスとなると、子どもはもちろん、親や周囲にいる乗客もやや不安。そこで、柏原営業所の社員が同学校の1〜2年生を対象にバスの乗り方を指南する「バス乗車体験」教室を開いています。

ち。学校の校庭にバスを乗り入れ、約1時間、バスの危険性やICカードを機械にかざして乗り降りする方法などを教えます。時にはバスルートを走ることも。不安から路線バスに子どもを1人で乗せたことがないという親は多く、この日初めて路線バスに乗ったという子もいます。そんな子どもは大喜びです。

終了時には、お礼として車中で子どもたちが声を合わせて『バスにのって』を歌ってくれるとか。普段、業務中にお客様とのやり取りの中でお礼を言われることがあるものの、社員は言葉が出ないほど感動す

ると言います。このような体験は社員のやる気につながり、運転手自ら教室のプログラムを考えるほどです。また、この活動が評判を呼び、2017年には若久特別支援学校でも教室が開かれるようになりました。

「周囲の期待に応えるだけでなく、自分たちも楽しむことが大切。それによって活動の幅が広がっていくと思う」と担当者。「固定観念にとらわれず、当社の企業メッセージである『まちに、夢を描こう』を胸に、お客様の立場で考え実践していきたい」と考えています。



■企業DATA

西日本鉄道株式会社 柏原自動車営業所	
住 所：	福岡市南区柏原6丁目478
T E L：	092-565-1668
会 社 設 立：	1908年
事 業 内 容：	旅客自動車運送事業ほか
従 業 員 数：	111名

■活動DATA

活 動 開 始：	2015年
活 動 回 数：	年2〜3回
活 動 場 所：	屋形原特別支援学校、若久特別支援学校ほか
活動従業員数：	5〜6名
参加児童数：	30〜40名

プロの技術を生かして福祉施設の 修繕や木工教室などを行う

福岡県建設労働組合
福岡東支部
南区

福岡県建設労働組合（福建労）福岡東支部は、大工や左官、とび職などの一人親方や従業員20名ほどの中小事業所が加入する労働組合です。福岡市には福岡西支部と福岡東支部があり、福岡東支部には1,400名が加入しています。福建労では毎年6月に「住宅デー」を開催し、地域住民の住まいに関する「無料住宅相談・診断」や加入者の技術を生かした「包丁研ぎ」「まな板削り」などのボランティア活動を行っています。

同支部ではこれに加え、事前に申し込みのあった福祉施設へ加入者の職人を派遣。40〜60代の職人たちがボランティアとしてできる範囲の棚の取り付けや修繕、ガラス窓清掃、エアコンの掃除などを行っています。予算の少ない福祉施設にとって、プロの手による棚の取り付けや修繕はありがたいこと。職人たちの訪問を心待ちにしています。また別の会場では、大工が本箱や小物入れの作り方を指南する木工教室なども行い、子どもたちに喜ば

れています。

職人たちはこのような活動を通して自らの腕、技術が人の役に立つ喜びを感じ、仕事に誇りを持つことができると言います。また障がい者や地域住民と触れ合い、お互いを理解し合えるため、メリットが大きいとも言います。中には受注につながることもあるのだとか。多くの職人に参加してもらい、活動の輪を広げていきたいと、担当者は語りました。



■企業DATA

福岡県建設労働組合福岡東支部	
住 所：	福岡市南区清水1-22-9
T E L：	092-541-1076
設 立：	1955年
事 業 内 容：	労働組合
会 員 数：	1,400名

■活動DATA

活 動 開 始：	2002年
活 動 回 数：	年1回(6月第3日曜)
活 動 場 所：	福祉施設、公民館ほか
活動組合員数：	包丁研ぎなどのボランティア11会場102名・来場者204名、改修ボランティア5施設8カ所17名、熊本支援ボランティア7名(2016年)

県内企業・団体が一齐にボランティア活動を行う

「勤マル」とは、勤労者マルチライフの略。「勤マルの日」は、勤労者の「仕事と生活の調和」の取れた働き方を実現するため、気軽にボランティア活動に親しんでもらおうと設定されたもので、いわば「福岡県内の勤労者が一齐にボランティア活動を行う日」といえます。

2004年～2006年、福岡県で厚生労働省の勤労者マルチライフ支援事業が実施されました。その後、事業を引き継ぐため、福岡県経営者協会、福岡市社会福祉協議会、NPOふくおかの三者で「勤マルの日実行委員会」が作られ、2006年から毎年秋に各地のボランティア団体の協力を得て

「勤マルの日」が実施されています。

活動場所・内容は幅広く、福岡市博物館の花壇の整備や舞鶴公園での花植え、九州がんセンターでの花植え、生の松原海岸の清掃、海の中道海浜公園での森づくり、福祉作業所でのアルミ缶リサイクル作業など、さまざま。普段その場所で活動をしているボランティア団体と一緒に行動するため、初心者でも参加しやすいのが特徴です。水上公園で清掃活動を行った福岡県建設業協会や、福博であい橋周辺で清掃活動を行ったオリエンタル白石のように、企業が独自に企画したものもあります。

参加者からは「気分転換になった。何も

勤マルの日

市内全域

考えずに作業できた」「達成感があった」「ボランティアに参加する方法を知らなかったが、ゴミ拾いに参加できてよかった」「日ごろできないことができた」「参加社員の笑顔が見られた」など、喜びの声が寄せられました。

2016年度は雨天となり、例年より参加者数が減少したのは残念でしたが、今後も引き続き実施される予定です。会社ぐるみで容易に始められる社会貢献の一つとして「勤マルの日」が企業に広く認知され、ボランティアの日として定着することが望まれます。



■活動DATA

活動開始：2006年
活動回数：年1回(11月)
活動場所：県内10～16カ所
参加企業・団体数・人数：2015年度31企業・団体672名、2016年度32企業・団体562名

子ども・親子を対象に防災講座を実施

市内全域

自動水汲み場「水の駅」の開発・管理など、家庭や地域に安全安心な「生まれたてのおいしい水」の提供を行っている柏葉食健株式会社。東日本大震災の際、水が手に入らない被災者の姿を目にし、悔しい思いをしたのだとか。そこで社員が防災士や応急手当普及員の資格を取得し、2015年から子どもを対象にした防災講座を開いています。

小学校の学童保育や保育園・幼稚園などを会場に、子どもの頃から防災意識を高める講座を実施。災害時、飲み水はなくな

りも飲めない水ならたくさんあることを題材に簡易の手動式真水製造装置を使って真水を製造する実験教室や、地震発生を想定した防災教室など、遊びながら楽しく学べるように工夫しています。

社員は当初、地域住民から営業活動と思われないか不安だったと振り返ります。コツコツと活動が続けるうちに地域から声がかかるようになり、2017年1月までに福岡市内とその近郊の50カ所以上で実施し、4,700名以上の親子が参加しています。

■企業DATA

はくようしゅけん
柏葉食健株式会社
住所：大野城市御笠川5-1-2
TEL：092-504-2801
創業：1974年
事業内容：自動水汲み場「水の駅」開発・維持管理、家庭用真水製造装置レンタルほか
従業員数：8名



■活動DATA

活動開始：2015年
活動時期：年間50回
活動場所：市内小学校の学童保育、障がい者支援施設、公民館ほか
来場者数：40カ所4,200名
(2016年度、一部福岡市外を含む)

教育機関でお金の知識を伝える

市内全域

三井住友フィナンシャルグループのSMBCコンシューマーファイナンス株式会社。「プロミス」の愛称で親しまれた会社といえば、ご存知の方も多いでしょう。

消費者金融サービスを提供する同社は、多重債務の予防および防止を重要な社会的責任のひとつと捉え、地域の方々や未来を担う学生にお金に関する正しい知識を持ってもらおうと、出前講座を実施しています。会場となるのは、地域の公民館や高校・大学などの教育機関です。小学生が対象の場合、カードゲームを通してお

金の歴史やお金の役割などを伝えます。高校・大学生には、ローンやクレジットの利便性や使用時の留意点、悪質業者の手口や金融トラブルの事例・対策方法、家計の管理方法などを紹介します。「分かりやすかった」「聞いてよかった」という受講者の声を聞いた時は、「地域に貢献している実感が湧く」と、担当者は話します。振り込め詐欺のように高齢者を対象にした事件や若者間のネットトラブル等も多く、消費者啓発の重要性がますます高まっています。社会やお客様のニーズを感じ取り、地域発

展のため、自治体やコミュニティと協働しながら地域に根ざした活動を今後も続けていく予定です。



■企業DATA

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社
福岡お客様サービスプラザ
住所：福岡市博多区博多駅前1-2-1 博多駅前ビル2F
TEL：092-686-9990
事業内容：貸金業
従業員数：8名



■活動DATA

活動開始：2011年
活動回数：月5～10回
活動場所：高校・大学、公民館
来場者数：40校・5,300名
(2016～2017年実績、一部北九州・久留米含む)

健康教室や終活講座など 企業の特徴を生かした出前講座

福岡市・区社会福祉協議会は、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指して、校区社会福祉協議会が行っている「ふれあい事業」を支援しています。「ふれあい事業」には、①地域住民や地域団体などが連携し、支援を必要とする高齢者や障がい者らを対象に見守りや声かけなどを行う「ふれあいネットワーク活動」、②高齢者や障がい者らと地域住民が公民館や集会所に定期的に集まって仲間づくりや交流などの場を広げる「ふれあいサロン活動」、③食事の準備が困難な高齢者らに食事を配ったり、安否確認などを行う「ふれあいランチ活動」があります。

株式会社九州第一興商

音楽を使って楽しく体操

第一興商グループは脳や口腔、運動の機能を向上させる音楽・体操プログラムを独自に開発し、「健康づくり教室」(写真)を行っています。音楽健康指導士が「生活総合改善機器DKエルダーシステム」を使って指導。歌いながら体操することで口腔器官や腹筋を鍛えることができ、深く呼吸することで体が温まります。機能を高めるだけでなくストレス解消もでき、心のケアにも喜ばれています。カラオケボックスでの介護予防教室も好評でした。

住所：福岡市博多区博多駅南6-2-5
TEL：092-412-2111
事業内容：業務用カラオケ事業ほか
活動開始年：2013年
活動回数：年に約80回
活動場所：公民館（一部福岡県南、佐賀を含む）
来場者数：各回10～30名

大塚製薬株式会社 福岡支店

健康に関する正しい知識・情報を提供

医薬品や健康飲料を製造・販売する同社は、福岡県と健康づくり等における協定を結んでいます。その一環としてふれあいサロンで「健康セミナー」(90～120分)を行い、高齢者の水分補給の仕方やサプリメントの基礎知識、バランスの取れた食事法など健康に関する正しい知識・情報を提供しています。来場者の喜ぶ姿を見て、担当者は福岡県民の健康増進に役立っていることを痛感するとか。地域から開催要望が多く、今後ますます力が入ります。

住所：福岡市博多区奈良屋町13-13
TEL：092-262-6500
事業内容：医薬品・臨床検査・医療機器・食料品・化粧品等の製造・販売
活動開始年：2014年
活動回数：年に約15回
活動場所：公民館、企業ほか
来場者数：各回約30名(年間約500名)

「ふれあいサロン」活動」には「出前講座」という形で力を貸している企業もたくさんあります。その一部を紹介します。



株式会社 明治 西日本支社

栄養や食事の摂り方をアドバイス

牛乳や乳製品、スポーツ栄養食品などを製造販売する同社は、管理栄養士による健康講座を実施しています。その内容は、食事や栄養の摂り方をアドバイスする「低栄養予防」、運動器の障害によって要介護となる「ロコモティブシンドローム」、水分不足によって引き起こされる「脱水症状」など。講師の栄養士たちはプロジェクターを使って分かりやすく説明し、またクイズを交えながら楽しく学ぶように工夫をしています。

住所：福岡市中央区長浜1-1-1 KBCビル5階
TEL：092-738-2207
事業内容：牛乳・乳製品・菓子・食品の製造販売
活動開始年：2011年
活動回数：年に約30回
活動場所：公民館、高齢者入居施設
来場者数：各回10～20名

株式会社ココカラファイン

健康をサポートする講座を実施

ドラッグストアや薬局を運営する同社は、薬の飲み方や使い方、管理の仕方、また生活習慣病の予防についてなど、地域の方々の健康をサポートする講座を行っています。神奈川・県横浜市を本拠地とする同社の九州での認知度はまだ低く、講座が同社を知ってもらう良い機会になると同時に地域貢献活動に取り組む社員の気持ちの向上につながっています。来場者からの「ありがとう」の言葉に、社員は仕事に対するやりがいを感じています。

住所：（ココカラファイン薬局奈多店）福岡市東区奈多3-6-19
TEL：092-286-4522
事業内容：ドラッグストア・調剤薬局の運営
活動開始年：2016年
活動回数：年に3～4回
活動場所：公民館ほか
来場者数：各回約20～40名

株式会社タカラ薬局

飲み方を伝える「おくすり講座」

福岡市および近郊で薬局を営む同社は、薬剤師による「おくすり講座」(約30分)を実施し、薬の正しい飲み方や脱水症状、血圧に関する知識・情報を提供しています。西区の「ふら～っとカフェ壱岐南」に参加しており、規模の大きさは違うもののカフェと出前講座の内容に大きな差はありません。昨年度から始めた出前講座は依頼が徐々に増えており、これからも地域の皆さんに喜ばれる活動を続けていく予定です。

住所：福岡市博多区博多駅前3-25-21博多駅前ビジネスセンター3F
TEL：092-436-2900
事業内容：薬局経営
活動開始年：2016年
活動回数：月に1～2回
活動場所：集会所、公民館
来場者数：各回20～30名

中央福岡ヤクルト販売株式会社

排便の大切さを知る「ウン知育教室」

同社は、スライドや模型などを使って食の大切さ、排便の大切さについて理解を深め、さらに体操などを取り入れ健康意識を高める講座を行っています。管理栄養士や健康管理士たちは、講師となる責任感が自身の努力を引き出し、地域と触れ合うことで社会との共生を認識するといえます。近年は会話を通じたコミュニケーションの重要性を感じており、地域との密着度を常に考えた企業姿勢で地道に活動を継続しています。

住所：福岡県太宰府市水城1-25-1
TEL：092-924-8960
事業内容：乳製品乳酸菌飲料およびジュース・清涼飲料の卸・販売
活動開始年：2011年
活動回数：年間423回(2016年度、出前講座以外を含む)
活動場所：公民館、老健施設、教育機関
来場者数：各回約25名

株式会社 あおやぎ

元気なうちに考えたい「終活講座」

葬祭業の同社は出前講座で「終活講座」を開いています。妻が亡くなり、「生命保険会社の資料が見あたらない」「預貯金口座がわからない」という夫の声も聞かれるとか。そこで、いざという時に困らないよう、葬儀の内容や遺影写真など、自分の希望を家族に伝えるためにエンディングノートを作成したほうが良いとアドバイスしています。「笑って話せるうちに考えたり、相談することが大事」と担当者。終活講座は生き方講座にもなっています。

住所：福岡市西区石丸2-11-42
TEL：092-885-1311
事業内容：葬祭業
活動開始年：2015年
活動回数：年に3～8回
活動場所：公民館ほか
来場者数：各回5～20名

株式会社 トーニン

転倒予防、認知症予防の健康教室

トーニンは、音楽と介護予防をかけ合わせて構築した高齢者のための音楽療養プログラムを使って「音楽健康促進教室」を実施。音楽健康指導士・福祉士の資格を持ったインストラクターが懐メロや童謡を織り交ぜた音楽や映像に合わせ、声を出しながら体を動かす体操を指導・実践しています。椅子に座ったままできるものも多く、体の不自由な人にも喜ばれています。「地元の企業として今後も地域とのつながりを大事にしていきたい」と担当者は話します。

住所：福岡市西区上山門3-18-18
TEL：092-882-0833
事業内容：業務用カラオケ機器商社
活動開始年：2015年
活動回数：年に約60回(一部福岡市近隣含む)
活動場所：公民館、高齢者福祉施設
来場者数：各回10～40名

株式会社^{かいふくほんぼ} 介福本舗

福祉用具や介護のお悩み相談

同社は車イスや歩行器、電動カート、介護用ベッドなど福祉用具のレンタル・販売をしており、病院や公民館の依頼によって福祉用具の使い方や負担の少ない介護の仕方などを教えています。近年は老々介護が増え、用具を知らないため介護に苦労している姿をよく見かけるとか。担当者は「介護者の負担を軽減し、楽になってもらいたい」思いで講座を行っています。最近は店舗業務が忙しく、実施の要望に応えられないもどかしさも感じています。

住所：福岡市西区生の松原2-8-1-1
TEL：092-985-0904
事業内容：福祉用具レンタル・販売
活動開始年：2013年
活動回数：年に3～4回
活動場所：公民館
来場者数：各回20～30名

株式会社^{さいえん} 彩苑

フラワーアレンジメントが人気

日頃から地域とのつながりを大事にしている彩苑。ふれあいサロンでは「おもてなし講座」(約90分)を開いてフラワーアレンジメントやお茶・コーヒーの美味しい淹れ方などを教え、お客様のおもてなし方をアドバイスしています。中でも男女問わない低価格のフラワーアレンジメントと無料の終活セミナーが人気です。地域の方と顔見知りになることで葬儀の際に喪主や参列者からは安心感が生まれています。

住所：福岡市東区若宮4-1-30
TEL：092-683-3100
事業内容：葬祭業
活動開始年：2014年
活動回数：年に約20回
活動場所：公民館、集会所ほか
来場者数：各回20～30名

企業が特定商品・サービスの売上の一部を寄付する

寄付つき商品

市内全域

社会貢献活動の中でもっともシンプルで誰にでもできる活動といえば、「募金」ではないでしょうか。福岡市社会福祉協議会や「赤い羽根共同募金」でおなじみの福岡県共同募金会福岡市支会が実施している「寄付つき商品」には計14社が参加し、商品の売上の一部を寄付して社会で役立ててもらっている活動をしています。

福岡市社会福祉協議会の「寄付つき商品」は、市民が参加企業の商品やサービスを購入・利用するごとに、その企業が売上の一部を同協議会に寄付する仕組み。「同協議会の公共性・社会的信用を損なうおそれのないもの」「寄付額が年間2万

円程度見込めるもの」などの基準をクリアした企業が同協議会に登録を申請し、審査会での審査を経た後、寄付活動をスタートさせます。

参加企業の業種は葬祭業、不動産会社、印刷会社、行政書士・社会福祉士事務所、ネット通信会社など幅広く、対象とする商品は企業が決め、筆記具メーカーと大学とのコラボ商品も生まれています。寄付金額も企業が決め、例えば某葬儀社は葬儀1件あたり200円寄付するようにしています。ネット通信会社は社内ラウンジに置いた自動販売機での売上1本につき一定額を寄付するようにしており、毎月3〜4万円

を寄付しています。

活動開始から4年経った今、寄付の総額は221万500円に上り、その寄付金は市の福祉サービスに活用されています。

一方、福岡県共同募金会福岡市支会は、2016年から本格的にこの活動を始めました。現在、パン専門店が食パンの売上の一部を「赤い羽根共同募金」に募金するなど、3社が活動に参加しています。これから広報に力を入れ、参加企業を増やしたい意向です。

寄付つき商品を買うだけで募金につながるというこの活動。日頃の何気ない消費活動が社会貢献活動の一翼を担っています。



活動DATA

福岡市社会福祉協議会 寄付つき商品

参加企業数：11社

株式会社ラック、株式会社美住、ゼブラ株式会社×西南学院大学×九州産業大学(写真②)、株式会社ライフエッジ、株式会社ベルコ、翼行政書士・社会福祉士事務所、株式会社友心、株式会社スキット、協文社印刷株式会社、九州通信ネットワーク株式会社(写真①)、一般社団法人プラスらいふサポート

募集開始：2013年

寄付総額：96万7,000円(2016年度)

福岡県共同募金会福岡市支会 寄付つき商品

参加企業数：3社

パン専門店PAIN CHARMANT(パン シャルマン)(写真④)、株式会社マイツル パンの店蔵蔵(写真⑤)、株式会社オーニシの5店舗(はかた文具館、薬院文具館、大橋文具館、かすが文具館、なかがわ文具館)(写真③)

募集開始：2016年

寄付総額：25,523円(2016年度)

企業の社会貢献活動の広がり地域福祉の創造に向けて

福岡市内の企業の社会貢献活動を見ると、そのとらえ方や活動の仕方はさまざまです。大きく分類すると、①地域と協力・連携する活動、②本業を生かした活動、③ボランティア・NPO団体との協働、④寄付があります。それぞれの特徴と課題を考えてみます。

地域と協力・連携する活動

現代社会は高齢化が進むと同時に一人暮らしが増え、社会的孤立を背景とした孤独死が地域の課題の一つとなっています。その課題に取り組んでいるのが、自治会・町内会や民生委員、校区社協などを中心にした地域組織です。これまでも公民館を拠点としたお祭りや交流会・老人会の集まりなど地域行事はありましたが、中には周囲との関わりを拒む住民もあり、そういう方々は孤立しがちです。そこで、校区社協を中心に、出欠を取らず、お茶を飲みに行く感覚、散歩に行く感覚で誰もが自由に出入りできる交流の場を設けるようになりました。それが「カフェ」で、市内各地に広がりつつあります。南区の「いじりカフェ」や「ほほえみカフェ」、西区の「ふら〜っとカフェ壱岐南」など、その運営に企業が携わっているところも増えてきました。

カフェの運営には、会場のセッティングやお茶・お菓子の用意などをするボランティアの力が欠かせません。「ふら〜っとカフェ壱岐南」にはボランティアが数十名おり、企業、ボランティアの区別なく「できる人ができることをする」のが特徴です。また子どもたちも手伝っています。

具体的活動内容はさまざまですが、8割を超える自治会・町内会で取り組まれている孤立死防止活動の基本的スタイルは、カフェのように地域住民が集まるのではなく、「ふれあいネットワーク」活動のように普段の生活を地域住民が「見守る」というやり方です。この「目」として期待されているのが企業です。東区・城浜校区では、校区に出入りする従業員らが気がかりな方の情報を共有し、「普段と違う」行動や会話に気づいたら町内会長や校区社協に連絡しています。城浜校区の高齢化率は他地域に比べて高く、孤立死や認知症の問題はより身近で切実な地域の課題です。同校区では独自の連絡カード(見守りカルテ)を作っていますが、自身の情報を自ら開示する人ばかりではなく、会議では個人情報の取り扱い方とそのルールづくりについて意見が交わされました。

これらの活動の特徴は「地域住民の主導」によるところです。超高齢社会の加速、単身社会の進行といった社会構造の変化は、高齢者等の生活に困難をもたらします。地域住民は、「見守り」やカフェなどの「居場所」「買い物支援」といった具体的な取り組みでその困難に対応する活動をしており、企業がこのような「住民活動」を支援しています。「住民活動」ですから地域住民主導で行われ、住民の要望・要請に企業が応える形になります。

また地域と協力・連携して行うこれらの活動には、企業が地域に入りやすく、地域住民と親しくなるため活動しやすいという利点があります。企業には、地域の課題を把握し、課題解決につながる活動ができるかどうかの方が大事になります。

本業を生かした活動

「買い物支援」や「障がい者交流」「技術提供」「人材提供」「講座」は、企業の本業を生かした活動といえます。

「買い物支援バス」は、葬儀業者が稼働していない自社バスを使って丘陵地に住む高齢者を買い物に連れていくものです。自分の目で見て手で触って選び、支払いをする買い物は体を動かし、脳を活性化させます。そして何より生活にハリを与えます。買い物に出かける方々は皆、はつらつとしています。また買い物の道中が高齢者にとっては交流の場になり、お世話をする地域住民にとっては高齢者の見守り活動にもなっています。企業は資源を有効利用でき、地域住民からの声をサービス向上などに生かせる利点があります。

西鉄バスの「障がい者交流」も本業を生かした活動です。また、この活動は、買い物や外出、公共交通機関の利用といった自立生活に必要な機能(IADL=Instrumental Activity of Daily Living 手段的日常生活動作)を高める生活訓練の一つになります。障がい者も健常者も平等な立場で地域社会に参加し、質の高い生活を送る「バリアフリー社会の実現」「地域共生社会の実現」を目指す活動へのアプローチといえましょう。これは「買い物支援」にも当てはまります。

「技術提供」や「講座」は、企業もしくは従業員が持つ専門技術や知識を使って困っている地域や住民を手助けするもので、活動内容は多岐に渡ります。

本業を生かしたこれらの活動は、企業カラーが出やすく、従業員にとっては自らの腕を発揮する場となり、活動しやすいといえます。ただし、活動の場が営業・販売の場にならないように、また技術や善意の押し売りにならないように配慮する必要があります。

ボランティア・NPO団体との協働

従業員が地域のボランティア団体と一緒にボランティアを行う「勤マルの日」は、誰もが参加できる社会貢献活動です。川や森、まちの清掃が多いため特別な技術を必要とせず、また受け入れ先との交渉がたやすく、活動しやすいものです。社会貢献活動をしたくても、何をしたらいいかわからない、どうしたらいいかわからない、多くの時間を活動にあてられないという企業にとっては、活動の良い機会となるでしょう。

川や森の清掃活動や地震などの被災地での災害ボランティアはNPO団体などが主導していることが多く、ボランティアの経験やさまざまな専門的知識あるいは資格を持った人材が揃っているため、これらの団体と手を結んで活動すると、スムーズにいきます。

「寄付」は誰もができる社会貢献

自社製品・サービスなどの売り上げの一部を寄付することもまた取り組みやすく、誰もが参加できる活動です。ジュースやパンを買えば、1つにつき数円～数十円が寄付される仕組みであり、1回の寄付金額は小さいものですが、年間を通してみれば大きな金額になります。

企業も地域の構成メンバー

「企業市民」という言葉があるように、現代社会において企業は地域社会を構成するメンバーと認識されています。企業が地域の構成員として地域で果たすべき役割は大きく、企

業に対する地域の期待もまた大変大きいものです。今や企業の社会貢献活動は重要な取り組みになっており、「良き企業市民」として企業には積極的に社会貢献活動を行うことが望まれます。

一方、地域に目を向ければ、地域は多様な課題を抱えており、住民の互助的な活動だけでは解決できないもの、あるいは限界があるものも少なくありません。そのため住民は、地域の問題解決に企業のチカラを貸してほしいと思っています。

限りある経営資源を投入する企業にとっては、社会貢献活動に即効性のある直接的な効果を期待したいところでしょうが、実際は難しいものです。

しかし、企業の社会貢献活動は今、CSRからCSV(Creating Shared Value=共有価値の創造)へと変化しています。「何かお役に立ちたい」という善意的な行動はたやすくできる活動に結び付きやすいため、マンネリ化を生み、活動の継続や広がりにつながりにくい傾向にあります。

それを解決するために生まれたのが「戦略的CSR」と呼ばれるCSVです。企業が追求する経済的価値(利益)と社会的な課題の解決という社会的な価値を同時に実現するという発想が基になっており、本業を通じて社会の課題を解決し、社会のニーズに応えることで企業競争において優位に立てるという考え方です。CSVには地域の課題を知る必要があり、地域との交流は欠かせません。

企業は自社の強み、他社との違いを見つけ、それらを地域の課題解決に活用するチカラが求められます。地域との交流によって知り合う人が多ければ多いほど、アイデアや知恵が集まり、既存にない新しい活用方法が生まれ、活動が広がっていく可能性も生まれます。

福岡市内の現在の社会貢献活動は、一部のリーダー、ボランティア、企業のCSR担当者の頑張りによるところが多く、転出、異動、病気を理由にその方々が活動を離れると、活動の縮小・停滞につながりかねません。社会貢献活動を長く続けるために、地域、企業ともに人材の育成、活動の継承も望まれます。

福岡市社協が目指す「地域福祉の実践」

福岡市社会福祉協議会(福岡市社協)は、多様な社会資源が存在する都市部の強みを活かして行う地域の課題解決モデルの開発を、「第5期地域福祉活動計画」の重点項目として挙げています。中でも、福祉と企業がパートナーとして協働して取り組む「企業の地域福祉型社会貢献活動」を重視しています。

この活動は地域住民や地域団体、NPO団体、ボランティアグループ、社会福祉施設、医療機関など地域を構成する主体との協働が必要であり、それが活動を始める際の難しさでもあります。しかし、企業とさまざまな主体とが出会いコミュニケーションを深める中で、地域の福祉ニーズや地域が企業に求めるものに気づくことができれば、独自性を持った社会貢献活動につながります。地域福祉分野での社会貢献活動は難しさがある反面、企業の多様性を生かすことができ、多様な可能性を秘めているといえます。

また「企業の地域福祉型社会貢献活動」を広げるためには、企業と地域の橋渡しをする存在が必要です。福岡市社協は、ボランティアセンターが中心となって企業の地域福祉活動への参加を支援していきます。

企業の社会貢献活動の多様な展開が、福岡市の地域福祉の創造へとつながります。福祉と企業の新たなパートナーシップをとともに目指していきましょう。

社会貢献活動メニューと活動までの流れ

活動メニューは豊富。できるところから始めよう！

「社会貢献したくても、何をしたらいいかわからない」という企業も多いでしょう。活動メニューは豊富にあります。企業の特性を生かし、市や校区の社会福祉協議会、公民館、住民の皆さんと手を結んで、できるところから始めてみませんか。

社会貢献活動メニュー例

1 商品や知識、従業員のスキルや労力を提供する

地域で活動する地域団体やNPO団体との協働

- 認知症サポーター、高齢者見守り活動への参画
- ふれあいサロンでの出前講座の実施
- 地域カフェ開催の協力
- 地域の防災訓練へ参加
- 地域イベントの景品として自社製品等を提供
- 校区社会福祉協議会の活動へ参加、共催、寄付
- 機材の提供に加え、機材を操作する従業員も参加
- 地域の自治会やボランティア団体等のIT 関係をサポート

福祉施設との協働

- 福祉作業所等の商品開発・販売のために知識を提供
- 福祉施設のイベントに協力
- 交流イベントを開催し、福祉施設の利用者を招待
- 福祉施設でのボランティア活動
- 福祉施設の草取りや清掃などの環境整備

その他

- 地域住民が参加できるイベントを実施
- 企業のスキルを活かした研修等の実施

2 企業の資源を活用する

一般的な支援

- 会議室や敷地を地域やボランティア団体等に提供
- 店舗の空スペースを福祉施設の自主製品販売コーナーに無償提供
- イベント等に駐車場の無償貸出し
- 企業が有する備品を提供

防災・災害支援

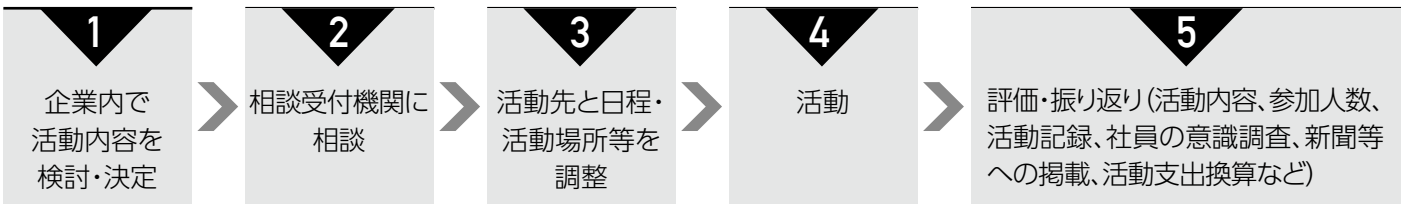
- 地域の防災訓練に敷地を提供
- 災害時に地域住民の避難所として会議室等を開放
- 企業が有する備品を提供し、災害ボランティアセンターを支援
- 被災者の生活支援のため、物資及び食糧等の備蓄
- 被災地への災害ボランティア活動

3 その他

- あいさつ運動・見守り活動
- 従業員へのボランティア活動の情報、機会の提供支援
- 従業員のボランティア休暇・表彰制度
- ボランティア活動推進部署の設置
- マッチングギフト制度
- 福祉施設の製品を積極的に活用
- 福祉団体、福祉施設等に寄付金及び寄付物品の贈呈
- 協賛、後援等の名義使用の許可
- 中間的就労(※1)の支援や職場体験の受け入れ

※1. 一般就労の困難な人が本格的な就労に向けた準備段階として働くこと

活動検討から実際の活動までの流れ



相談受付機関

企業の社会貢献活動のご相談・コーディネートについては、下記の機関が行っています。お気軽にご相談ください。

1 福岡市・各区社会福祉協議会

社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会
福岡市ボランティアセンター

住 所：〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ2階
T E L：092-713-0777
F A X：092-713-0778
M a i l：vc@fukuoka-shakyo.or.jp
U R L：http://www.fukuoka-shakyo.or.jp

社会福祉法人 福岡市博多区社会福祉協議会

住 所：〒812-8514 福岡市博多区博多駅前2-19-24 保健福祉センター3階
T E L：092-436-3651
F A X：092-436-3652
M a i l：hakataku@fukuoka-shakyo.or.jp

社会福祉法人 福岡市南区社会福祉協議会

住 所：〒815-8501 福岡市南区塩原3-25-1 南区役所別館1階
T E L：092-554-1039
F A X：092-557-4068
M a i l：minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp

社会福祉法人 福岡市早良区社会福祉協議会

住 所：〒814-0006 福岡市早良区百道1-1-1 UMEBE BLD1階
T E L：092-832-7383
F A X：092-832-7382
M a i l：sawaraku@fukuoka-shakyo.or.jp

2 福岡市NPO・ボランティア交流センター
あすみん

住 所：〒810-0021 福岡市中央区今泉1-19-22 天神クラス4階
T E L：092-724-4801
F A X：092-724-4901
M a i l：info@fnvc.jp
U R L：http://www.fnvc.jp

4 特定非営利活動法人
ふくおかNPOセンター

住 所：〒810-0001 福岡市中央区天神5-5-8 福桜ビル3階
T E L：092-751-6042
F A X：092-751-6043
M a i l：info@npo-an.com
U R L：http://www.npo-an.com

6 福岡県NPO・ボランティアセンター

住 所：〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎5F
T E L：092-631-4411
F A X：092-631-4413
M a i l：nvc@pref.fukuoka.lg.jp
U R L：http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/

社会福祉法人 福岡市東区社会福祉協議会

住 所：〒812-0054 福岡市東区馬出5-40-11 箱崎前田6ビル3階
T E L：092-643-8922
F A X：092-643-8923
M a i l：higashiku@fukuoka-shakyo.or.jp
U R L：http://www.syakyo-higashiku.net/

社会福祉法人 福岡市中央区社会福祉協議会

住 所：〒810-8622 福岡市中央区大名2-5-31 中央区役所1階
T E L：092-737-6280
F A X：092-737-6285
M a i l：chuouku@fukuoka-shakyo.or.jp

社会福祉法人 福岡市城南区社会福祉協議会

住 所：〒814-0103 福岡市城南区鳥飼5-2-25 城南保健所1階
T E L：092-832-6427
F A X：092-832-6428
M a i l：jounanku@fukuoka-shakyo.or.jp

社会福祉法人 福岡市西区社会福祉協議会

住 所：〒819-0005 福岡市西区内浜1-7-1 北山興産ビル1階
T E L：092-895-3110
F A X：092-895-3109
M a i l：nishiku@fukuoka-shakyo.or.jp

3 特定非営利活動法人
NPOふくおか

住 所：〒810-0041 福岡市中央区大名2-11-22 若林ビル2階
T E L：092-732-5057
F A X：092-732-5057
M a i l：info@npofukuoka.com
U R L：http://www.npofukuoka.com/index.php

5 NPO法人アカツキ

住 所：〒810-0022 福岡市中央区薬院2-16-14-502
TEL・FAX：なし(ホームページのお問い合わせフォームでお問い合わせください)
M a i l：info@aka-tsuki.org
U R L：http://aka-tsuki.org/